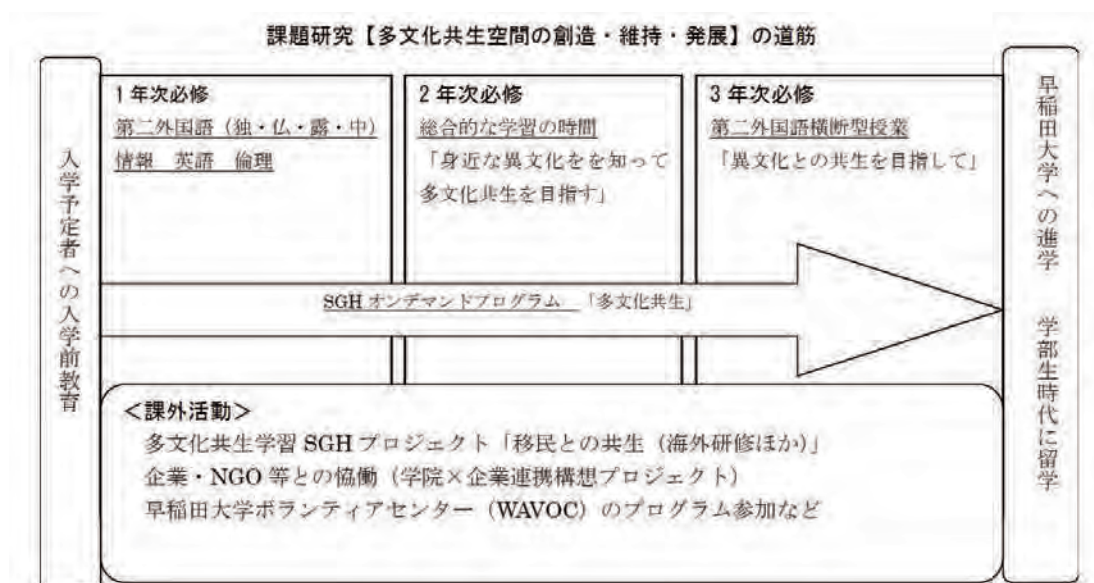


多文化共生社会を創造する グローバルリーダー育成プログラム

多文化社会で自己を主張して集団的意思決定に関わりながら、集団に継続的に関与し続けるリーダーの育成

【構想の概要】

学内外における異文化との接触機会を増やし、学校が「異文化」や「多様性」を日常的に考えられるような、世界に開かれた多文化共生空間となること自体を課題研究のテーマとした。その課題研究を実施するために、「教科内の取組」「環境づくりと機会設定」「課外プロジェクト活動の充実・発展」という3つの分野で様々な研究開発単位（総合的な学習の時間、第二外国語の授業、大学との接続など）を実施した。多文化共生空間としての学校を維持・発展させるには、コミュニケーションの機会なくしてはありえず、引き続き母語・外国語を問わず「言語化」を重視した学校像を模索したい。



教育課程表

教科	1年次		2年次		3年次		教科	1年次		2年次		3年次	
	科目	単位	科目	単位	科目	単位		科目	単位	科目	単位	科目	単位
国語	国語総合 現代文	2	現代文B (前)	2	現代文B (後)	2	家庭	家庭基礎	2				
	国語総合 古典	2	古典B (前)	2	古典B (後)	1		社会と情報 (前)	1	社会と情報 (後)	1		
地理歴史	世界史A	2					芸術	音楽 I・美術 I・書道 I	2				
公民	倫理	2			政治・経済	2				文理コース別選択	8	文理コース別選択	11
数学	数学I	3	数学II (a)	2			選択科目					自由選択科目2	2
	数学A	2	数学II (b)	2								大学準備講座2	2
理科	物理基礎	2	生物基礎	2			総合的な学習の時間			総合的な学習の時間	1	総合的な学習の時間	1
	化学基礎	2	地学基礎	2				ホームルーム	1	ホームルーム	1	ホームルーム	1
保健体育	体育	2	体育	2	体育	3	合計		34		34		32
	保健	1	保健	1									
外国語	コミュニケーション英語I (a)	2	コミュニケーション英語II (a)	2	コミュニケーション英語III (a)	1							
	コミュニケーション英語I (b)	1	コミュニケーション英語II (b)	1	コミュニケーション英語III (b)	2							
	英語表現I	2	英語表現II (前)	2	英語表現II (後)	2							
	ドイツ語I・フランス語I・ロシア語I・中国語I	3	ドイツ語II・フランス語II・ロシア語II・中国語II	3	ドイツ語III・フランス語III・ロシア語III・中国語III	2							

第二外国語教育を通じた異文化理解の促進

本校では、全生徒が英語だけでなく、フランス語・ドイツ語・中国語・ロシア語の4言語から選択した第二外国語を、高校1年生から3年間で最低8単位学習する。3年間クラス替えのないHRクラス自体が、語学選択によって決定されるため、日常生活・学習空間からその言語と文化に対する関心に結びつきやすい。そうした既存の環境をさらに積極的に推進するべく、第二外国語4言語で、従来の日常会話や文法学習を超え、異文化理解を意識したインタビューで利用できる発信型の教材を開発し、それに基づき授業を展開した。さらに、日本滞在中の4言語の母語話者にインタビューを行い、そこから文化的摩擦や共生への障害を浮き彫りにして、解決策を模索する「第二外国語(4言語)横断型プロジェクト授業」も開発した。これは言語別の授業内で実施するだけでなく、各言語の代表者が授業を通じて発見した問題点を学芸発表会の場で紹介し、学内外の生徒と共有している。これは、生徒自身が問題発見から解決を試みる実践であると同時に、言語ごとの垣根を超える「横断型学習」の実践ともなっている。

ロクワフ高校との合同授業風景(高2仏語・2017年度)



総合的な学習の時間を通じた課題研究

「総合的な学習の時間」では、学年を跨いで「自ら問いを立て、仮説をつくり、論証して、議論する力」をつけることを目指している。高校3年次は、早稲田大学13学部が守備範囲とする幅広い学術的関心に繋がるような「自分だけの問い」を立て、1万2000字程度の卒業論文を執筆する。その前段階である2年生の「総合的な学習の時間」では、緩やかな共通テーマを設定し、個人およびグループワー

クで問いを立て、「仮説をつくり論証していく活動」を行う。1学期の共通テーマは「学院生の特徴」をテーマに、ローデータを基にしたクロス分析までを個人で行う。2学期は、「身近な異文化を知って多文化共生を目指す」をテーマとして、グループで課題解決に向けたプレゼンテーションまでを行う。3学期は課題発見解決型の4テーマを掲示し、小論文の指導を行う。高2総合の授業はどの段階においても、学内情報通信環境を用いた「ネット上での資料提供や課題提出」を積極的に行うようにした。その結果、9教科に跨る20名の教員が一定の枠組みの中で担当することが可能となっている。生徒ごとに多様な経験をしている学校において、カリキュラムの統合的な役割も負っている。

情報通信環境を用いた資料提供と課題提出



フィールドワークと体験に基づく言語化

課外活動として、複数のゼミ活動を構成要素とした「多文化共生学習SGHプロジェクト」を開発し、展開した。この活動に参加する生徒は、多文化共生を進める国内外の各都市でフィールドワークを実施し、少子高齢化問題や人口減少問題なども視野に、現実の課題に対するアプローチを考えてきた。これらの成果を学内外の生徒に展開するべく、ポスター発表や学内外の成果報告の場に積極的に参加してきた。同時に、仮説論証の材料としてのみフィールドワークを捉えるのではなく、そこで得られた体験を生徒自身の人生における動機付けに展開できるように、早稲田大学ボランティアセンター(WAVOC)の実施する授業「体験の言語化」プログラムとの接続を図り、生徒の経験を生徒自身の言葉で表現していく学習メソッドの開発も行った。母語・外国語を問わず「言語化」は、本テーマにおいて重要なキーワードとなった。